



レプトスピラ症が確認されました！！

レプトスピラ症とは・・・？

病原性レプトスピラの感染による人と動物の共通感染症で、ワイル病、秋やみ、用水病、七日熱（なぬかやみ）などとして古くから知られています。

レプトスピラは保菌動物（ドブネズミなど）の腎臓に保菌され、尿中に排出されます。保菌動物の尿で汚染された水や土壌から、経皮的あるいは経口的に感染します。レプトスピラには病原性と非病原性があり、顕微鏡下凝集試験にて現在250以上の血清型に分類されています。長さ6～20 μm 、直径0.1 μm のらせん状の形状で、好気的な環境で生育し、中性あるいは弱アルカリ性の淡水中や湿った土壌中で数カ月生存できます。

人では潜伏期間は3日から2週間程度で、悪寒、発熱、頭痛、全身の倦怠感、筋肉痛、など急性熱性疾患の症状を示すとされています。軽症型の場合は風邪に似た症状で、やがて回復しますが、ワイル病の別名でも呼ばれる重症型では、5～8日後から黄疸、出血、肝臓・腎臓障害などの症状が見られ、エボラ出血熱と同レベルの全身性出血を伴ったりする場合があります。重症型の死亡率は5～50%とされています。

犬では、人と同じく、軽症の場合もありますが、急性の場合、出血、発熱、嘔吐、血便、口腔粘膜の潰瘍、黄疸、腎炎、出血傾向などの症状を示し、2～4日で死亡する場合があります。

診断には、血液による血清診断法（顕微鏡下凝集試験法（MAT法））と、血液や尿による遺伝子検査（PCR法）を行います。しかし、検査を行う時期や病気の進み方によっては、十分な検査結果が得られず、確定診断が難しい場合もあり、症状や経過も合わせた総合診断が必要となります。

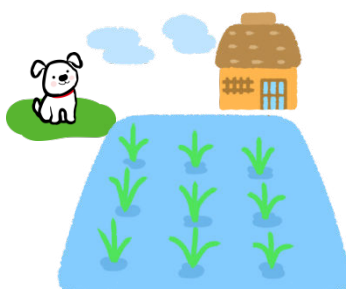
治療は、病状に応じた抗菌薬の使用と感染に伴う合併症の管理を行います。抗菌薬使用時には、体内の細菌が一斉に崩壊して毒素が短時間で血液中に放出されるため、発熱・低血圧などのショック症状を起こす場合があるので気を付ける必要があるなど、重症の場合には治療には様々な困難が伴います。

予防については、血清型が合致するワクチンを接種します。また 50℃の熱湯約 10 分で死滅するほか、乾燥や pH6.8 以下の酸に弱い為、次亜塩素酸ナトリウム、ヨード、逆性石鹼などで消毒出来ます。流行地域では不用意に水に入らない事、また洪水の後などは感染の危険性が高まります。

散歩など外出をする場合には、ドッグラン・田畑・郊外などでは特に気を付けましょう。



ドッグラン



田畑近郊



郊外

参照資料：National Institute Of Infectious Diseases 国立感染症研究所
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/plague/392-encyclopedia/531-leptospirosis.html>

作成：公益社団法人大阪府獣医師会